

吉川市の未来を切り拓く農業への提案（2011年6月）

吉川市に標記のタイトルで提案をする切欠は、当 NPO がバイオマスタウンアドバイザーとして市町村のタウン構想の策定、その後の事業化計画や地域のバイオマス循環利用のためのシステム作りをとおして、我が国農業の現状や課題を見たときに、このままでは「農業」の未来は危うい、言い換えれば「食」の安全・安心＝食の安全保障が保てないということであり、当 NPO の所在地「吉川市」に置き換えた時の当 NPO などの提言を行ったものであります。

現在吉川市は平成 24 年度を初年度とする、第 5 次吉川市総合振興計画を策定中であり、それらの計画に一石を投じることが出来れば幸いの思いで提言したものです。それでは提言の概要を述べますが詳しくは下記の PDF に掲載いたします。

《吉川市農業の現状》

- ・農家戸数では 1995 年 1,270 戸が 2005 年 971 戸と 24%の減少。
- ・2005 年時点で農業人口の 30%が 65 歳以上である（農業が主な従事者では 65 歳以上は 56%にも達する）。
- ・耕作放棄地が 37ha で、放棄地率は 7.2%（全国平均 9%）であるが南部地域では 19.2%と高い率である。
- ・吉川市の農業生産額は 2005 年に 27.4 億円であり、米が 12.9 億円（48%）、野菜 11.5 億円（42%）、花卉 1.2 億円（4%）である。
- ・吉川市の農業生産性（耕地 1ha 当り生産額）は 0.22 億円/ha であり、首都圏の他の市町村の中では低い方に入る（神奈川県三浦市は 0.8 億円/ha で吉川市の 3.6 倍）。

《吉川市農業活性化への方策》

方策としては、農業活性化の視点で述べているが、捉え方によると「資源循環利用（生ごみ・稲わら・もみ殻等）」「食の安全・安心」「地産地消」「環境保全」「再生可能エネルギー利用（菜の花プロジェクト）」と市民生活から環境・資源・エネルギー・地域の活性化にわたる提言であると言える。

① 持続可能で魅力ある農業にするために

- ・担い手の確保
- ・生産性、経営の効率化
- ・農産物の品質確保（ブランド化）
- ・安定した生産の確保
- ・耕作放棄地の活用

② 農業の競争力をつけるために

- ・品質の絞り込み
- ・技術の改良
- ・堆肥の活用（資源循環システムの構築）

「吉川市の未来を切り拓く農業への提案」（PDF3.3MB）